

安全で安心できる生活環境 ～バリアフリーのまちづくりと今後の課題～

1900年代後半の障害者の「外に出る運動」から始まったバリアフリーまちづくりの進展は目覚ましいものがある。1980年代の国際障害者年、1990年代の国内障害者年を通じたノーマライゼーション思想により、「障害がある人も、高齢者も、…」通常の社会生活が送れるように街をバリアフリー化する取り組みが進んだ。自治体は福祉のまちづくりを要綱化、条例化し、90年代には全国の都道府県条例にまとめられた。国は公共的建築物に関するハートビル法を制定し、2000年には画期的ともいえる交通バリアフリー法を制定し、2006年にはそれらを統合・拡充してバリアフリー新法を制定した。鉄道事業者が車いす者や視覚障害者のためのバリアフリーに本格的に取り組み出したのは1970年代初頭であったが、この間40年ほどの間に、主要な駅などの都市施設の車いす、視覚障害者等への対応は大きく進んだ。当初障害当事者の生活権擁護に立脚したバリアフリー化も、その原動力にこの間以下のような新しい流れや背景が加わった。(1) 1980年代あたりから加速した世界でも未曾有の人口高齢化、(2) 1992年の都市計画法改正以後さらに加速された住民参加・参画によるまちづくり、(3) 旧来の給付・救済型福祉から脱却し

て環境改善による障害者社会参加を重視する世界的な障害者施策の変化、(4) 交通・情報のボーダーレス化とハイモビリティ社会化、(5) 多様性を重視する社会的価値感の進展。

このように多様な背景が関連しバリアフリーが進められてきたが、それは今やまちづくり・社会基盤整備において、環境問題と並んで最も重要な目的・目標の一つとされる。バリアフリーは一過性のものでなく今後も続く世紀的なタイムスパンの長いものであろう。その理由として、上記のように複合した多目的の「人にやさしい」まちづくりの一環であること、長期にわたって作られた社会基盤の「つくり変え」が必要になること、すべての多様な人々に対応するユニバーサルデザインとして発展すること、PDCAの継続的改善が必要とされることがあげられる。これらはいずれも現時点ではまだ端緒についたばかりであり、ほとんどが今後の課題とされる。そのうち重要と思われる2・3点について述べる。

①ユニバーサルデザインへの発展

バリアフリーを突き詰めてゆくと、障害者のみならず妊産婦、外国人、けが人、旅行者など多様な人々が使いやすいようにまちを変えてゆく課題

近畿大学 理工学部 社会環境工学科 教授

み ほし
三星 昭宏



が出てくる。また、五感を積極的にいかして多様な人に安全・便利・快適なまちを作る課題がある。しかし、現実にはまだわが国のまちづくりはこの段階に入っているとはいえない。たとえば近年バリアフリーの対象とされ出した知的・精神・発達障害者について考慮・配慮した事例、外国人に本格的に配慮したまちを作った事例などはまだほとんど出ていない。五感を積極的に活かすまちづくりについてもほとんど手がついていない。健康まちづくりはまだコンセプト段階にすぎない。

②継続的改善

バリアフリー化するだけでなくできた後も継続的に改善することはバリアフリー新法でも特に強調している点であるが、交通バリアフリー法時にできた移動円滑化基本構想を組織的に当事者参加で継続的にチェック・改善している自治体の例は意外に少ない。この原因は自治体・事業者のこの点に対する認識に問題があることと、縦割り・ハコモノ行政といった行政の仕組みにも問題があると思われる。これをきちんと実行し、スキルを高めることは今後のまちづくり・建設行政の中心的課題といえよう。

③当事者・住民の参加・参画

バリアフリーの現地点検活動は大いに進んだ。関西の例でも1回200人を超える参加者が集まる例がいくつか出ているが、これはまちづくりの他分野にない数字であり今や当事者参加はバリアフリーや交通安全点検が先導しているともいえる。しかし、それらはまだ一過的であり、多様な人々を集める点で十分でない。また多数の人を集め、点検し、対策案を考えるスキルも不足している。継続的改善とあわせて今後の課題としたい。

④福祉・医療・保険施策との連動

バリアフリーのそもそもの目的を考えると、建設分野と福祉・医療・保険施策との連携が必要になるが、現状は行政の縦割りによりほとんどそれがなされていない。まちづくりサイドとしっかり連携した「地域福祉計画」作り、福祉分野と連携したバリアフリーのアウトカム指標作りなどはほとんどなされていないといえる。同様に教育分野との連携も課題である。

これらを解決しユニバーサルデザインを発展させることは言い直せばこれまでの国土交通分野のあり方の転換ともいえ新世紀のまちづくりの中心的課題となる。関係者の努力が期待される。